
 学 会 記 事

第 10 回新潟胆膵研究会

日 時 平成 21 年 9 月 12 日 (土)
午後 2 時～6 時 15 分
会 場 万代シルバーホテル
5 階 万代の間

Session I 「膵・胆道・脾」

1 EST 後再発総胆管結石における BMI と高脂血症の関連についての検討

濱 勇・古川 浩一・横尾 健
林 雅博・河久 順志・相場 恒男
米山 靖・和栗 暢夫・杉村 一仁
五十嵐健太郎・月岡 恵

新潟市民病院消化器科

【目的】総胆管結石 EST 治療症例における初回再発に関する BMI と高脂血症の関与を明らかにし、術後の BMI や高脂血症の変動が再発に及ぼす影響を検討する。

【方法】2000 年 3 月から 2008 年 9 月まで当科における総胆管結石 EST 施行症例 241 例中、初回 EST 例 215 例 (男性 125 例, 女性 90 例, 平均年齢 69.5 歳) を対象とした。

① EST 後総胆管結石再発の危険因子としては治療時 BMI, 高脂血症の有無を他の因子 (年齢, 性別, 総胆管結石のサイズ, 個数, EST 切開幅) と結石再発リスクについてロジスティック回帰分析を用いて retrospective に検討する。

②介入での再発抑止効果を検討するため、再発症例において BMI ならびに総コレステロール値の変動と無再発期間の相関を単変量解析により検討する。

【成績】高 BMI 群と高脂血症合併例で有意に無

再発期間が短縮していた。BMI を低値群; < 25, 高値群; 25 ≤ の 2 群で高脂血症合併の有無で層別化すると 2 群ともに高脂血症合併例で無再発期間が短い傾向にあった。ロジスティック回帰分析でも高脂血症の合併が有意に再発と関連していた。次に、結石再発例の 13 例 (男性 9 例, 女性 4 例, 平均年齢 71.7 歳, 平均観察期間 824.3 日) について検討した。平均無再発期間は BMI 低下群では経過中の総コレステロール値の下降の場合で 217 日, 上昇の場合で 171 日であったのに対し BMI 上昇群ではともに 163 日, 164 日であった。総コレステロール値の変動のいかにかわらず BMI のマイナス変動による無再発期間の延長が示唆された。

【結語】総胆管結石 EST 後初回再発には生活習慣病としての高脂血症, 肥満 (BMI ≥ 25) が関連していた。予防的な治療介入として BMI の低下が寄与する可能性が示唆された。

2 多施設共同調査による自己免疫性膵炎合併症としての肺病変の検討

横尾 健¹⁾・古川 浩一¹⁾・林 雅博¹⁾
河久 順志¹⁾・濱 勇¹⁾・相場 恒男¹⁾
米山 靖¹⁾・和栗 暢夫¹⁾・杉村 一仁¹⁾
五十嵐健太郎¹⁾・月岡 恵¹⁾
橋立 英樹²⁾・佐藤 知巳³⁾・本山 展隆⁴⁾
関 慶一⁵⁾・中村 厚夫⁶⁾・塩路 和彦⁷⁾
成澤林太郎⁷⁾

新潟市民病院消化器科¹⁾

同 病理科²⁾

新潟県厚生連長岡中央総合病院消化器科³⁾

県立がんセンター新潟病院消化器科⁴⁾

済生会新潟第二病院消化器科⁵⁾

県立吉田病院内科⁶⁾

新潟大学医歯学総合病院光学医療診療部⁷⁾

【目的】高 IgG4 血症を伴う自己免疫性膵炎 (AIP) には種々の膵外病変の合併が報告されている。しかし肺病変の検証は十分ではない。今回、多施設共同調査にて AIP 合併肺病変の臨床像を検討した。肺生検にて IgG4 陽性形質細胞浸潤を